

秋田県五城目町
朝市と城のある町

みんなの町議会



Contents

主な内容

- 決算特別委員会 3~5
- 常任委員会の焦点 6~7
- 一般質問に6名登壇 8~14
- あれ なんとったべが! 15
- 議会を傍聴しました・がんばってます 16

復興支援
響くJAZZの歌声

No.156
2023.10.1

決算特別委員会

令和4年度の災害対策は十分であったか



7日間にわたる決算特別委員会



委員長
伊藤 正春

決算特別委員会

- 委員長 伊藤 正春
 - 副委員長 工藤 政彦
 - 委員 松浦 真
 - 委員 椎名 志保
 - 委員 荒川 滋
 - 委員 佐々木 仁茂
 - 委員 石川 交三
- (議会議長)

決算特別委員会は、9月8日～14日までの7日間の日程で行われた。付託された議案は、令和4年度一般・特別会計歳入歳出決算など7議案であり、審査の結果、全議案を全会一致で認定すべきものとした。

審査方針としては、各課の新しい取り組みをそれぞれ取り上げ、課題だけではなく、成果や効果もまとめて審査した。

陳情

採択

◆学校における教員不足と長時間過密労働解消のために、学級編制標準と基礎定数の改善による正規教員増を国に要請することについて

陳情者
加賀屋 俊悦

意見書(抜粋)

- 一、学級編制標準を改正し、少人数学級制を拡充する。
- 二、基礎定数の数値を改正し、授業担当時数の軽減を行う。

議員提出議案

可決

◆森林環境譲与税の見直しを求める意見書

提出者
館岡 隆

賛成者
佐藤 重信

賛成者
佐々木 仁成

意見書(抜粋)

- 一、国においては、森林の多い市町村が必要な森林整備をより一層推進することができるよう譲与基準を見直すことを強く要望する。

(松浦 真)

7月豪雨災害への 質疑が集中

令和5年度一般会計補正予算案

9月 定例会

議会の経過



町民の関心が集まる議会答弁

9月定例会は9月4日から15日までの12日間の日程で開催された。

初日 渡邊町長は行政報告で「7月豪雨災害について改めてお見舞いを申し上げる。また、町内外からの温かい支援にも感謝し、国・県に必要な復旧・復興支援を引き続き要望していく。

被災者支援として、本定例会に、持ち家の床上浸水10万円、借家の床上浸水5万円、持ち家の床下浸水3万円を給付する予算を計上。町内で被災した事業者への改修補助金は、実績が確定次第速やかに助成金を支払い、町内経済および雇用の持続と復興に努めていく。馬場目川の氾濫については、8月7日に県地域振興局建設部長を現地に招き、大規模な洲ざらいおよび伐木処理について強く要望し、県

もすでに作業を実施している」と述べた。

2日目 一般質問には6名が登壇。豪雨災害対策、災害に強いまちづくり、豪雨災害の検証、防災行政無線の個別受信機貸与、防災・減災、湯ノ又橋の工事着手遅れ、などの質問が行われた。

3日目～4日目 当局より、令和5年度一般会計補正予算案など19件の議案と5件の報告が上程され、各常任委員会で審査した。

5日目～11日目 決算特別委員会にて各課室の令和4年度決算について審査。

最終日 決算特別委員長、各常任委員長報告の後、全議案を可決・承認・認定・報告済とし、陳情1件を採択とした。その後、議員提出議案を可決し閉会した。

定例会で可決した主な予算

●災害救助費(専決処分)	26億2,000万円
・農地復旧	17億5,877万円
・林道復旧	5,798万円
・公共土木復旧	7,960万円
・事業所改修	3,600万円
●公営住宅修繕費	675万円
●コロナワクチン接種対策費	1,398万円
●被災者生活支援特別給付金	5,150万円

表紙写真

9月10日、高性寺境内でチャリティーライブが行われた。

(松浦 真)

令和4年度の決算内容を 厳しくチェック

消防本部

県消防学校に7名、数急救命東京研修所に1名、その他6課程に2名、病院実習に13名を派遣。あらゆる災害に対応できる消防体制を確保するため人材育成に努めている。軽4輪小型ポンプ積載車を4台更新する。

税務課

固定資産税の未納が増えていた。相続放棄するケースが多い。今後、コロナや災害により税率への影響が懸念される。

総務課

湖東厚生病院のR4運営費補助金は16,408千円。役場庁舎は建設から40年経過し、暖房設備と空調設備工事を実施した。橋梁の長寿命化と各施設の維持補修など財源の確保が課題である。五城目町の将来負担比率は52.1%、加速する人口減少については加味していないため、今回のような災害があれば、5億円財政調整基金から繰り出す必要がある。

出納室

R4年末、基金の債券運用総額は財政調整基金2億円。水道事業会計1億円。今後はR5年秋、秋田県が発行する「ESG債(グリーンボンド)」への投資が予定されている。

議会事務局

議会広報「みんなの町議会」発行1回あたり4,600部を作成し、年4回町内全世帯及び関係団体に配布。議員4名が国際文化アカデミーで4コース受講。新規事業として議会に対する町民の理解と関心を高めるため、町HPに議会会議録を公開。

住民生活課

火葬場改修工事に着手し、R4年8月に増築部分の供用を開始。斎場、火葬場と呼び名が統一していないので統一した方がよいと指摘。防災行政無線設置当初は、各町内で使用できることになってきたが、現在は使えない。再考すべきだと指摘。災害時において効率的に備蓄品供給を行うため、備蓄倉庫の建設を進めている。

健康福祉課

コロナワクチン接種者数は7,197名、町民センターなどで51日間実施した。各課を超えてのコロナワクチン接種対応は評価できる。コロナワクチン接種が義務でなければ副作用の関係で接種を控えたいという人が、増えつつあり、接種率の低下に繋がっている。出生数の低下によって子ども園の園児数が減少している。経営的に厳しくなっており、何らかの支援策が必要である。

農業委員会

農業委員及び農地利用最適化推進委員が利用するタブレット端末を購入。農地の出し手・受け手の意向を効率的に把握し、関係機関と情報を共有するための体制を整備した。

農林振興課

8月の豪雨災害での農地、農業用施設災害復旧工事ではR5年3月専決処分した施設9ヶ所、過年債を活用した農地19ヶ所、施設15ヶ所の復旧工事はほぼ終了している。

商工振興課

新型コロナウイルス対策事業では感染症の影響を受けている商工業者に対して法人20万円、141件。個人10万円、346件に支援金を支給。オール五城目生活応援商品券事業では急激な物価高騰により町内経済に影響を及ぼしていることから町民一人あたり1万円を発行した。朝市振興では出店者の高齢化に伴い、出店者数の減少が続いている。朝市Plus+頼みではなく、町もイベントやふれあい館を活用し、情報発信に努め賑やかさを取り戻して欲しいと指摘した。

国民健康保険特別会計

データヘルス計画に基づき健診受診勧奨通知、ジェネリック医薬品差額通知を実施し、医療費の削減に努めている。保健事業では人間ドック21名。脳ドック5名。被保険者数1,809人、各種健診の助成で重症化を防止した。保険証についてはR6年度秋からマイナンバーカードの一体化が、予定されている。

後期高齢者医療特別会計

後期高齢者医療保険の徴収が、市町村業務であることから、未納分の保険料徴収に努める。令和4年度末の被保険者数2,336人、新規加入者数は160人で年々増加傾向にある。保険料収納率低下を防ぐため、未納者の徴収をどうするかが課題であると指摘した。

介護保険特別会計

健康状態不明の高齢者へ保健師などの医療専門職が戸別訪問保健指導の継続を実施している。フレイル状態または恐れのある方を見つけ出すことも重要であると指摘した。

障害認定事業特別会計

3町1村で行なう障害支援区分認定審査会の認定に伴う経常経費が主なものである。新規は4人が認定された。

生涯学習課

多様な町民の学習意欲に応える率浦大学、わらしべ塾、各地区公民館で主催している各種講座に加え、年齢を問わず全町民を対象に「みんなの

まちづくり課

企業誘致について県内では工業団地を整備したところに誘致が進められている。町の誘致活動は製造業を考えている。昨年は空き事務所に企業から相談もあったので今後も諦めずに取り組んでいく。新規事業では脱炭素化推進事業

建設課

可能性調査を行なっており町全域では太陽光発電を主体に、雀館地域では木質バイオマスを利用して公的施設へのエネルギー供給を行っている。

水道事業会計

公共土木災害復旧事業では全27ヶ所中、年度内完成は、単独事業が2ヶ所、残り25ヶ所をR5年度に繰り越し、早期復旧に努めている。小川口川の護岸工事は完成していたが、今年7月の災害で川床が洗掘されたことで未満災として新たに査定を受ける。

水道事業会計

橋梁補修、舗装改良などをR5年度に繰り越している。青空号の今後について、従事する職員の高齢化が進み町民のニーズに応えられなくなっている。建設業協会にも委託しながら対応していく。

水道事業会計

給水人口8,004人、普及率は98.9%。前年度より224人の減、有収水量は前年度より41,848mの減で有収率は85.6%となっている。電気料金の高騰、給水収益の減額により6年連続の

追加審査

税務課

税の滞納や不納欠損額が、年々増加していることから町民の税の公平性、平等性から徴収の取り組みについて追加審査をした。専門員が3人いるが、税務課の職員だけでは賅えないため、更に増員し徴収チームを作って自主財源で欲しいと指摘した。

健康福祉課

老人福祉施設への入所措置が必要な町民は多数いる。町



8月豪雨災害の現地を視察

は措置が必要かどうかをその都度高齢者サービス調整チームに諮る義務がある。相談件数は何件か、適切に開催されていたのかなど事実関係を確認した。事態を検証の上、事務処理を改善し、福祉サービスに支障をきたさないように強く指摘した。

現地視察として、火葬場、五小菜園、身ノ瀬頭首工、湯ノ又橋橋梁添架管、小川口川護岸工事の未満災(修復後一年に満たない災害)の状況を確認した。

災害時こそ 防災行政無線を



水沢の崩落現場、重機で作業中
※右側の滝の上部から巨岩が落石した。

委員から「土砂災害による通行止めが相次いだ。有事の際には、町内会長権限で防災行政無線を各地域ごとに使用出来るはずではなかったか」と質疑があり、当局から「ピンポイントで防災行政無線を流すことは可能だが、現時点ではカギを町内会に預けるまでには至っていない」と答弁があった。また、委員から「それでは緊急時に役に立たないのではないか。水沢の土砂崩れの際は電話も不通になった。携帯電話を持たない高齢者は家族と連絡が取れず困っていた。町内会でカギを管理できるようにすべきだ」と指摘があった。

教育民生 常任委員会

温水プールが被災

室内温水プール西側に設置しているキュービクル式高圧受電設備が浸水し、損傷した。部品調達が長期化することに伴う応急措置の経費に、委員から「温水プールは、小学校の授業に必要なのは理解できるが、一方でコストのかかる施設でもある。被災による修繕費用や今後も経費がかかることから、プールの在り方や存続についての考えは」と質疑があり、当局から「近隣市町村にはない温水プールでもあり、小学校も隣に建設された。授業での使用など小学生的の利用も増えている。存続の考えである」と答弁があった。キュービクル修繕には50%の保険対応が見込まれる。



なぜここにプールの心臓部が

被災者への支援を審議

被災者生活支援特別給付金		災害見舞金（床上浸水世帯）	
・ 床上浸水 持家世帯	10万円	・ 五城目町 借家に住む方	3万円
・ 借家世帯	5万円	・ 秋田県 自己所有家屋に住む方	20万円
・ 床下浸水 持家世帯	3万円	・ 借家に住む方	6万円
・ 災害援護資金		・ 県の災害見舞金は、町の災害見舞金と振り込み時期は異なる。	
・ 住家が半壊被害に170万円を限度として、貸し付ける費用。			

(畑澤 洋子)

農林・公共土木 甚大な被害発生



被災した農地（寺庭）

7月14日から15日の大雨により農林振興課関係では、農地117ヶ所、概算の被害額11億9,600万円。農業用施設19ヶ所、概算の被害額1億2,400万円。林道4路線7ヶ所、概算の被害額8,300万円の災害が発生した。これらの災害査定に伴う調査設計等委託料2億7,024万円。流木などの廃棄物処理委託料及び、法面崩落など復旧のための作業委託料3億4,930万円。また災害査定前に農地の土砂など撤去に着手するための経費として、11億9,600万円をそれぞれ補正計上した。建設課関係では、河川18ヶ所、概算の被害額3億200万円。道路4ヶ所、概算の被害額1億2,200万円。



護岸が崩落した坊村橋付近

橋梁2ヶ所、概算の被害額3億4,500万円。内訳は廣徳寺橋3億2,000万円、坊村橋2,500万円の災害が発生した。

これらの災害査定に伴う調査設計等委託料6,850万円。土砂の撤去、破損した道路・水路などの補修委託料及び機械借上料として950万円。また道路の清掃に伴う作業委託料5,385万円をそれぞれ補正計上した。

今後、農地・農業用施設災害は10月16日から12月8日まで、林道災害は10月23日から10月26日まで、公共土木施設災害は9月29日から12月8日まで、順次国の災害査定調査を受け、被災規模、被災額が決定し、速やかに復旧作業に着手し、早期復興に努める。

廣徳寺橋の仮橋設置

今回の大雨により馬場目川が増水し、馬場目門前地区へ通じる「廣徳寺橋」の橋脚が沈下被害を受け、通行上の安全確保が困難となり全面通行止めとなった。

門前地区からの迂回路は林道五秋線しかなく、狭隘で移動に長時間要することから大変不便な生活を強いられた。

半孤立状態に陥った門前地区住民の生活を早期に安定させるため、国土交通省から「応急組立橋」を無償で借上げ、8月21日から仮橋設置工事に着手した。（9月12日に無事仮橋の架設工事を終え、その後仮道を整備し9月17日に仮橋と仮道の供用が開始され、門前地区の孤立が解消された）



架設中の仮橋



完成した仮橋

(石井 光雅)

災害、改良復旧工事に ならないか

町長 可能性は低い

町長 この度被災した箇所は、従来どおり災害復旧事業により工事施工する予定。町が管理する河川のほとんどが山間部を流れる河川幅の狭い小河川であり、隣接する土地は農地や山林であり、市街地などとの関連は薄いことから、改良復旧工事を実施する可能性は低い。



水門設備のチェック、開閉管理は誰が行うのか

町長 断水時には、千代田区などから支援を受けた飲料水を町内会の協力を得て、地域住民に迅速に配布することができた。この度の災害を通じて得られたものは、あらゆる分野からの受援体制の整備を進めていくことの必要性であり、この経験を今後活かしていく。

あなたにかわって
聞きました

一般質問



松浦 真

一般質問動画はQRコードから

松浦 今回行う工事は復旧工事（原状復帰）の予定であるが、復興工事（単に従前の状況に復旧するのではなく、長期的展望に基づき、市街地構造や住宅形態、社会経済を含めた地域の総合的な構造を抜本的に見直し、新しい市街地や地域の創出を目指すこと）にはならないのか。

町長 この度被災した箇所は、従来どおり災害復旧事業により工事施工する予定。町が管理する河川のほとんどが山間部を流れる河川幅の狭い小河川であり、隣接する土地は農地や山林であり、市街地などとの関連は薄いことから、改良復旧工事を実施する可能性は低い。

松浦 今回内水氾濫箇所が多かった。その理由に水門が解放されたままであったことが理由に考えられる。水害時における水門の開閉については誰がいつどのようなタイミングで行うことになっているか。またその周知や訓練に向けて今後の予定は。また、水門設備のチェック状況は。

町長 断水時には、千代田区などから支援を受けた飲料水を町内会の協力を得て、地域住民に迅速に配布することができた。この度の災害を通じて得られたものは、あらゆる分野からの受援体制の整備を進めていくことの必要性であり、この経験を今後活かしていく。

水門設備のチェック

松浦 今回内水氾濫箇所が多かった。その理由に水門が解放されたままであったことが理由に考えられる。水害時における水門の開閉については誰がいつどのようなタイミングで行うことになっているか。またその周知や訓練に向けて今後の予定は。また、水門設備のチェック状況は。

松浦 東磯ノ目地区で、トイレなどから逆流した世帯もあつた。越水氾濫であれば県管轄の川からの対応になるが、内水氾濫であれば町の排水能力の課題にもつながる。

町として改めて内水氾濫はなく、町に課題がないと考えているか。また複合的な課題はないか。また複合的な課題はないか。また複合的な課題はないか。

一般質問

6議員が登場 我が町政を問う

一般質問とは？

- ・年4回の定例会において、議員が町政全般について現状や方針を問うものです。
- ・答弁を含む一人当たりの持ち時間は60分で、事前通告制が採用されています。
- ・質問をするかしないかは、議員個人の判断によります。

質問者

松浦 真 議員

- 豪雨災害について
- こども議会について

椎名 志保 議員

- 災害に強いまちづくりを
- 職員採用にキャリアを生かした社会人枠を

荒川 滋 議員

- 令和5年7月豪雨を十分に検証し災害に強い町に

畑澤 洋子 議員

- 希望者に防災行政無線の個別受信機の貸与を
- 道の駅に災害時の防災拠点機能を持たせる
- 湯ノ又橋をどうする
- 浄水場施設の水害破損を期に更なる安全対策を

高藤 晋 議員

- 災害関連について
- 防災・減災について これからの町について

工藤 政彦 議員

- 内川川について
- 馬場目川について
- 富津内川について
- 浄水場の新設について

* 誌面の関係上掲載できなかった●印の質問については、町ホームページにて議会映像を配信しておりますのでそちらをご覧ください。



五城目町議会映像配信 www.gojome-town.stream.jfit.co.jp

意義ある発言機会は大事な議員活動の場といえます。 議会を傍聴してみませんか？

傍聴の手順をご紹介します。事前連絡は不要です。

- ①役場4階へ上がります。
(エレベーターをご利用ください)



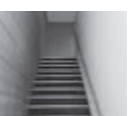
- ②議会事務局前で受け付け。
(受付表に必要事項を記入
検温と手指の消毒剤あります)



- ④町の方向性を直接聞くことができます。
(開会中はお静かに願います)



- ③階段で傍聴席へ。
(定員40名)



※新型コロナウイルス感染拡大の防止および、傍聴される皆様の健康を守る観点から、傍聴を自粛いただく場合がございます。お問い合わせ先 議会事務局 018-852-5411

(工藤 政彦)

一般質問

災害時の地域の見守り 民間と連携を

町長 マニュアルを作成する



椎名 志保
一般質問動画はQRコードから

災害に強い まちづくりを

椎名 7月の大雨災害後、直ちに馬場目川河川内の浚渫工事に着手しているが、それだけでなく、洪水は防げるのか。次なる対策は。また内水氾濫の検証と対策を。

町長 雄物川圏域流域治水協議会下流域分科会の中で、馬場目川水系においても治水対策を実施する。内水氾濫対策についても、更なる調査を実施し、早期着手に臨みたい。

椎名 農業用水路が溢れ、床上浸水被害に見舞われた田町杉ヶ崎地区は、4度目の被災であり、今回は範囲も広がった。対策と共に、早急に水路内の州ざらいを。

町長 昨年、県の担当者が現地確認し、改修の必要性を理

解したが、具体的な方策がなく、検討を継続している。町としても協議していく。
椎名 浸水被害を受け、断水に至った浄水場は今後も心配される。新たな水源の調査、費用の試算など、プロジェクトチームを立ち上げ、取り組む必要がある。町の大きな課題ではないか。

被災農地に支援を

だけ早く土砂や流木を取り除き、来春には作付け出来る状態にしてほしい」というものだ。業者の確保は大丈夫か。復旧工事が農家の負担なく行われること、浸水家屋や被災した事業者同様、農地の被災に対しても助成すべきだ。

町長 町内業者に加え、県などへ町外業者の紹介を要請している。激甚災害に指定され、国の補助率が96%程度と見込まれる。農家の更なる負担軽減を図っていく。

住まいの確保を

椎名 自力での再建が困難な被災者のため、公営住宅を増やす必要があるのではないかと。

町長 公営住宅は最長2年間まで住居として提供していくが、2年を超えても継続は可能であり、現在入居していない方も空きが出次第入居したい。

椎名 自宅で被災された軽度の要介護・要支援者、見守りが必要な方で、自宅での生活が困難となった方の行き先はあるのか。

町長 軽度の介護認定者が利用できる施設は少ない。地域包括支援センターの訪問活動



ここが田んぼだったとは

椎名 農地も大きな被害を受けた。農家の願いは「出来る



宮城県丸森町の災害公営住宅

を強化し、コミュニティドクター、社会福祉協議会や町内会長、民生児童委員など地域との連携を強固にし、在宅生活支援の充実に努めていく。

教育の機会保障を

椎名 被災した子どもたちの学習の環境は整えられているか。家計が急変した世帯から、年度途中でも奨学金貸与申請を受け付けるべきだ。

教育長 教科書、学用品を配布し、授業に支障は無い。また心のケアも行っていく。高校生への育英資金の貸付は、今年度は年間を通し貸与申請を受け付けることにしており、町広報10月号やホームページに再度掲載する。

心温まる支援物資を どう届ける



民間事業所の協力にも感謝

荒川 全国から心温まる支援が届いている。被災された世帯に物資を確実に届けるには。

町長 行政、民間グループ、企業、社協、町内会、民生児童委員、NPOなど関係機関の協力が必要であり、手順など必要事項を定めたマニュアル作成に向け取り組む。

住宅用止水板設置を

荒川 住宅用止水板設置に補助を。

町長 県外では実施例がある。実効性の高い施策の早期実施が必要で、先進事例を参考に住宅の防災力向上に関する支援を進める。

一般質問

災害に強い町づくり宣言を

町長 教訓生かすべく防災減災に取り組む



荒川 滋
一般質問動画はQRコードから

荒川 町長自らの言葉で災害に強いまち宣言を。

町長 災害で得た多くの教訓を生かすべく、ハード・ソフト両面から防災・減災対策に取り組む、災害に強いまち、安全安心なまちづくりを進めていく。



以前の川幅に戻す工事

馬場目川浚渫工事 の内容は

荒川 これまで何度も何度も訴えてきた馬場目川の洲ざらい

い(浚渫)工事が、管理者の県によってようやく始まったがその内容と効果は。
町長 内容は伐採・除根・堆積土砂除去、範囲は西野橋から富津内川合流部までで土砂の除去量は3万400m³。工期は12月22日で、流下能力は向上すると期待している。

町長 管理は町であるが、基本的に開閉は行っておらず常に開放している。今回の磯ノ目地区の冠水は馬場目川からの外水が主な原因であり内水による影響は少ないと思われるが、磯ノ目地区排水計画の見直し調査後、対策事業に臨む。

東磯ノ目都市下水路 水門はどうだった

荒川 被害が甚大であった磯ノ目地区。当日、東磯ノ目の町道下を通り馬場目川に注ぐ都市下水路水門の開閉操作はあったか。



開いていた都市下水路の水門(東磯ノ目)

町長 今後の更新と並行して検討し、現在地でのかさ上げや移転の可能性について今後調査する。



築60年を超える浄水場

浄水場は移転が 必要なのではないか

荒川 大きな被害を受け断水をもたらした浄水場は移転の必要がある。

住宅用止水板設置を

荒川 住宅用止水板設置に補助を。

町長 県外では実施例がある。実効性の高い施策の早期実施が必要で、先進事例を参考に住宅の防災力向上に関する支援を進める。

一般質問

湯ノ又橋をどうする

町長 住民説明会時に
意見聴取の場を設ける



畑澤 洋子
(公明党)

一般質問動画はQRコードから

畑澤 2年続けて床上・床下浸水を経験した湯ノ又町内の方は、肅々と住める環境に戻す努力をしている。水管を下流側に移動して、3回目は無いと言い切れるか。「橋をどうするか」思いは皆違う。町



昨年8月から湾曲したままの水管橋



下流側に移設した水管橋

が率先して被災者の要望を聞く機会を作れないか。

町長 昨年度の洪水痕跡調査後、説明会を開催する予定だったが、その矢先に7月豪雨災害が発生し、説明会開催を断念した。県は今回の豪雨による洪水痕跡調査後に住民説明会を参集する。その機会に湯ノ又橋の今後の在り方に意見を聴取する場としたい。

防災行政無線に 個別受信機の貸与を

畑澤 高齢者の方はSNS(ソーシャルネットワークワーキング

道の駅に 防災拠点機能を

畑澤 7月災害ではトイレ・休憩所を含むすべての建物が



普段はラジオで使用出来る防災ラジオ

サービス)を活用する人は少なく、緊急時は防災行政無線が頼みである。しかし災害本番では聞き取れないと苦情が多い。個別受信機をポケベル機能で格安にした自治体もある。防災ラジオの貸し出しが有効ではないか。

町長 防災行政無線のみですべての情報を伝えるには限界がある。情報伝達手段の多様化を進めているところだ。町がすでに整備した情報伝達手段の効果が最大限に生かされるよう再度、周知に努める。

浄水場の水害破損を 期に安全対策を

畑澤 浄水場は重要な施設と全町民が身に染みて理解できた。築年数・更新時期は。今後想定される被害に具体的な策「2か所目の浄水場建設」など必要だ。

町長 現在築61年を迎えた。施設の更新も含まれた計画があったが、財政上の問題もあり完了に至っていない。現在新たな水道ビジョンの策定をしており、浸水対策も盛り込んだ計画とし、完成まで調査中の止水施設で対応する。

一般質問

補助金・見舞金の支給を早く

町長 速やかに給付されるよう努める



齋藤 晋

一般質問動画はQRコードから

齋藤 家財・電化製品・食料も水浸しになった多くのお年寄りから、「補助金を早く支給してくれ」との要望があった。条例や規定に忠実に実施するのもいいが、少しでも早く補助金・見舞金を被災者に届けるべきだ。

町長 罹災証明書の発行に合わせて、住家の床上浸水の被害に遭った世帯を対象に9月



罹災証明書は書かないと補助金が貰えない

役場職員の 避難訓練を

齋藤 避難所に派遣された職員が避難所の避難用具・非常食などの収納箇所すら把握していなかったとの避難者からの苦情があった。町民の避難訓練も大事だが、その前に職員の避難訓練をすべき。



避難所の災害備蓄は足りているか

防災・減災の ための森林管理は

齋藤 杉の伐採のため、ブルで山を削り雨の度に泥水や砂利が川にあふれ流木が橋にかかり洪水を発生させる。防災・減災のため山の管理は必要である。町はどうする。

町長 現在の林業は、高性能林業機械を導入しなければ成



川は泥だらけ・魚も住めない

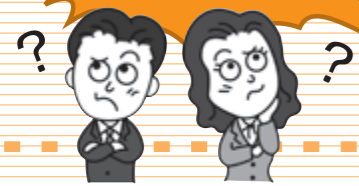
り立たない、伐採・集材のため林業機械の走行する作業道は不可欠であり、作業道の設置には林野庁の指針があり、森林組合でも指導を徹底し、繰り返し使用にも耐える強度としている。町では森林整備計画に基づき、適切な森林整備を実施する。

その他に

- 洪水が発生した3河川をどうする
 - 給水車を常備すべき
 - 浸水した空き家をどうする
 - 多くの内水氾濫をどう防ぐ
 - 戸村堰・真崎堰の氾濫をどう防ぐ
- など質問した。

なんとなくだったべが!

令和4年9月定例会一般質問より



問

町内河川の大規模改修を

1年前の答弁 県に対し河川改修事業進捗のペースアップを要望。

現在 令和4年8月の大雨による富津内川、内川川の被害については令和4年9月21日、22日に被災された地区の方々を参集し、秋田地域振興局建設部による住民説明会が開催されている。

その際に、被害地区の洪水痕跡調査を実施し調査結果を再度説明する予定であり、まさに開催を準備している矢先に令和5年7月豪雨被害に見舞われ、再調査を実施する予定である。
今後は、調査結果を聴取し住民の意見を踏まえた改修要望をしていく。

問

被災農地の復旧・支援をどう進める

1年前の答弁 国の補助事業適用以外は、小災害復旧事業として早期復旧を進める。

現在 令和4年に被災した農地・農業用施設については、復旧工事にかかる前に、春先に、農地に仮畦畔を設置し、水路については通水できるようにするなどの仮復旧を行い、農作物の作付けに間に合わせている。一部の復旧工事は収穫後に行う予定。

問

子ども議会の開催を

1年前の答弁 来年度以降の本格的な導入に向けては、成果と課題を検証し、これまでの県内外の先進的な事例を参考にしながら、教育委員会や校長会と協議を重ね、準備を進めていく。

現在 今年度は、「生徒にとつての有意義な時間とすること」「子どもの権利を守ること」に視点を当て、講師より課題設定・調査・プレゼン方法などに助言・サポートしてもらいながら、11月の開催に向けて準備を進めている。
教育委員会では、地域との連携を図りながら、子ども議会を通して「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」を目指していく。

問

被災はいつも同じ箇所、対策を

1年前の答弁 農業用水の増水による被害に対しては土のうを積むなど対策はしているが、根本的な解決に至っていない。県や各水利組合、土地改良区へ排水改良について要望していく。

現在 具体的な方策を見出せていないが、県において検討中であり、町としても方向性を見出せるよう、協議を継続していく。

あなたにかわって聞きました

一般質問



工藤 政彦
一般質問動画はQRコードから

馬場目川と八郎湖接続部に排水機場を

町長 事業要件、事業化を県へ相談したい

工藤 馬場目川においては、早急に大規模な河川改修(河川の拡幅、築堤などの嵩上げ)の必要がある。

また、大元の馬場目川から八郎湖に注がれる水の流れが滞ったり、大雨により八郎湖水面の調整がうまくいかず防潮水門を開けてもスムーズで効率的な流れが実現できなく、これら要因で五城目町は甚大な被害を受けたと考えられる。大雨などによる市街地や農地などへの被害を未然に防止するために排水ポンプを運転して、雨水や生活排水などを強制的に排出するための施設「排水機場」の新設を提言する。

町長 秋田県によると、防潮水門は海水の流入を防ぎながら大雨など調整池の水位が上昇するおそれがある場合は事前に防潮水門を開放し調整池の水位を低下させている。



排水機場ポンプで浸水防止(能代市)

今回の大雨予報時においても事前に開放し対応したと伺う。馬場目川と八郎湖の接続部に「排水機場」を新設できないか、については、事業要件、事業化などについて県へ相談していく。

排水機場の設置を

工藤 生命と財産を守る「排水機場」なぜ馬場目川流域に設置されていないのか。

町長 町でも様々な角度から調査し必要な施設であれば、今後雄物川圏域流域治水協議会下流域分科会において町からも排水機場について提案していく。

内川川のバイパス河道を

工藤 昨年に続き、今回も同じ被害を受けた住民がたささるっている。被災された住民の「やるせない」気持ち痛いほど伝わってくる。雑木の伐採、浚渫工事の早期着手は必要であるが、この工事をしたから河川の氾濫は防げるとは思えない心境だ。この際、内川川のバイパス河道工事(河川の付け替え工事)を提言する。「大休院付近から右側へ被災を受けた住家の後方を通り身ノ淵頭首工に取り付けるルート」



住家を避けたバイパス河道に

町長 県では現在、内川川に対しては河道工事の計画は未策定であることから、住民説

嵩上げ工事は

工藤 富津内川「上山内・下山内地区」築堤工事、嵩上げ工事を早急にしないのか。

町長 県では現在家屋の浸水被害軽減対策を検討中。今後、雄物川圏域流域治水協議会下流域分科会において町から提案すると共に、伐木浚渫についても併せて県に要望し、調整しながら対策を進めていく。

浄水場を高台に

工藤 今回の大雨に伴い浄水場は大規模な浸水被害を受けた。今後同様の浸水があった場合の対応を講じる必要があるが、この際、浸水の被害を受けない高台への新設の検討をしてみてもどうか。

町長 新たな水道ビジョンの策定を実施している。まずは止水対策を実施し、浸水対策を盛り込んだ新たな水道ビジョンによる施設の更新を進めていく。

明会などで住民の意見を伺い、今後どのような対策が有効かを検証し、河道工事も含めて検討すること。



議会を傍聴しました

曖昧なままで終わらない議会に



工藤兼雄美さん
(西磯ノ目)

被災の検証と対策という町民の切実な願いが議題となる今議会は、三十数名の方が傍聴席に足を運んだ。議員たちは、被災者の無念を思い、時に強い口調で、時に感極まって言葉に詰まりつつ、熱気あふれる話し合いが展開された。今回、初めて傍聴された方が多かったが、これを期に、次回からも知人を誘い、参加してくれると嬉しい。「議会ってどうせ担当者が書いた原稿を町長が読んで『今後調査検討します』って答えるだけだすべ」とい

う冷めた声を耳にすることがある。

町民にもっと関心を持って頂くには多少の改革が必要だ。その一つとして、当局の答弁が曖昧で納得できない時は、遠慮せず再質問、再々質問を繰り返し、事実関係を明らかにすることが大切だと思う。一問一答という慣習にとらわれていては、「なれ合いでは」といらぬ誤解を招き、町民にそっぽを向かれかねない。今議会は意欲的な再質問がなされ、『馬場目川に設置された15基の水門の管理運営は杜撰かつ曖昧であり、被害拡大の要因となった』という重大な事実が明らかになった。万事、曖昧は不幸を招く。



(松浦 真)

がんばってます

六年生で頑張ってるんよ



五城目小学校
六年

小林 〇〇さん

ほくには、六年生になって頑張っていることが二つあります。

一つ目は、自分から積極的に授業や行事に取り組むことです。今年の運動会では、団長として仲間と一緒に大きな声で応援し、楽しくやることができました。機会があったらまた、自分から進んでやりたいと思います。

ました。

二つ目は、新たな挑戦をしていることです。ほくは、六年生になってから柔道を始めました。最初は何も分かりませんでした。分からないところは教えてもらうとできるようになってきて、練習試合でも勝てるようになって、楽しくなってきました。



運動会も積極的に取り組む

(工藤 政彦)

編集

後記

7月豪雨水害で被災された皆様へ改めて、お見舞い申し上げます。また、この豪雨水害を乗り越えるために尽力してくださった役員職員、町内、町外の有志の皆様にも厚く御礼申し上げます。

五城目町は二年連続の災害に見舞われ、これからの防災にどうつなげていくか、今議会でも議論がなされました。ただ、数十年に一度の大雨が毎年のように起きる昨今では、堤防や水門の管理だけでは根本的な対策にはなりません。世界中で起きている日照りや水害など、地球温暖化の影響も無視できません。今後CO2削減に向けて、木質バイオマス発電や太陽光発電など、五城目町の持つ資源を生かしたエネルギー循環を、町民一人ひとりと考えていくべきであると思えます。役場職員を中心としたワークショップも昨年度から行われており、今後も引き続き検討が進んでいきます。

議会広報編集委員長

松浦 真 記

